

図書館の本棚から(一般)

2016年7・8月号 亀山市立図書館

●すべての雲は銀の… 村山由佳

恋人の裏切りに心を引き裂かれ、大学生活を捨て信州・菅平にやって来た僕が出会ったのは、信州の空のような明るさの奥にさまざまな傷を隠し持った人たちだった。

○夕風の街 桜の国 こうの史代

昭和三十年。灼熱の閃光が放たれた時から十年。ヒロシマを舞台に、一人の女性の魂が大きく揺れた。最もか弱き者たちにとって、戦争とは何だったのか、原爆とは何だったのか。

●少女七竈と七人の可愛そうな大人 桜庭一樹

私、七竈 17歳は遺憾ながら、美しく生まれてしまった。大人の男たちからじろじろと眺めまわされるたびに私は怒りを感じる。母に、世界に…。気鋭の作家が描き出す最高の恋愛小説。

○小生物語 乙一

驚天動地、奇々怪々、前代未聞、無我夢中、陰翳礼讃、波瀾万丈…。小生と乙一の161日。

●パンとスープとネコ日和 群ようこ

母を突然亡くしたアキコは、永年勤めていた出版社を辞め、母が経営していた食堂を改装して再オープンさせた。安心できる食材を使い、手間ひまをかけるのがアキコのこだわりだ。そんな彼女の元にネコのたろがやって来て…。

○モネの庭四季彩 前田博史

画家のパレットを思わせる色彩あふれる春、睡蓮が咲き始める初夏、豊かな色合いを深めてゆく秋…。高知県北川村「モネの庭」マルモッタンの四季を写し撮った写真集。

●山女日記 湊かなえ

私の選択は、間違っていたのですか。悩める7人の胸に去来するのは。誰にも言えない苦い思いを抱いて、女たちは、一步一步、頂を目指す。新しい景色が小さな答えをくれる連作長編。

○柔らかな犀の角 山崎努

演じる。書く。受け容れる。こんな風に、生きている…。読書の歓びから演技論、生と死の「かたち」まで、「本」から広がる名優の随想ノート。『

●4TEEN 石田衣良

銀座から地下鉄で10分、長屋ともんじゃ焼きと超高層マンションが調和して共存する町・月島。この町で僕たちは恋をし、傷つき、死と出会い、そして大人になっていく…。14歳の中学生4人組が出会った8つの瑞々しい物語。

○はじめての男着物 木下勝博

毎日着物で生活する著者が提案する、お洒落な男の着物ガイド。季節やシチュエーションに応じたコーディネートや、着物を着るために必要なものなどをビジュアル中心に紹介するほか、購入するための心構え、ショップ情報も掲載。